

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	地域おこし集いの場 井戸端会議で地域の魅力を最構築
事業主体 (連絡先)	井戸端会議 実行委員会 (実行委員長 三浦 典子 090-7266-1303)
事業区分	その他 地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト事業
総事業費	400,895 円 (うち支援金: 300,000 円)

事業内容

井戸端会議実行委員会では「知る、繋がる、始める」をキャッチフレーズに、地域の中で活動をしている様々な人達がつながることで、子供からお年寄り、そして障がいのある人達と共に、地域の中の新たな魅力を引き出す活動を行った。障がいのある人の芸術表現の場として、宮田宿を描くイベント・障がい者の能力発揮の場として個展の開催・障がいのある当事者と外国人の支援を行っている地球陣ネットワークが協力して行ったカウントダウンコンサートなどの活動を通じて、障がいの有無を問わない、バリアフリーな交流の場となり、精神の障がいを持つ人たちへの社会的な偏見のない地域づくり活動に取り組んだ。



【精神障がい者のピアサポートの実践 「来い・コイの会」の活動に学ぶ学習会】

【目標・ねらい】

- ①地域おこしのネットワーク構築
- ②社会的弱者の生きがいづくり
- ③障がいのある人の居場所づくり
- ④社会的偏見のない地域づくり

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

精神の障がいを持つ当事者が自ら支援者として活動する「ピアサポート」の活動では、当事者研究や WRAP (元気回復行動プラン) など、当事者主体の学習会を村人テラスを拠点に開催した。また、佐久圏域で活動している「来い・コイの会」の活動を学ぶ学習会では、長野県看護大学の協力を得て、学生や行政職・病院関係者など幅広いつながりを作る機会となった

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

障がいの有無を問わない地域おこし活動をさらに推進していく。「障がいのある人の能力発揮の場づくり」をさらに発展させ、就労や収入に結びつけることができるような場所や機会づくりを目指していく。また新たに「食と農業」についての取り組みを加えていく。ピアサポート活動では、引き続き、看護大学などと連携して定期的な学習の機会や居場所づくりに取り組んでいく。

※自己評価 【B】

【理由】 様々な分野の人達が井戸端会議のイベントを通じて活動に参加し始めた。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
 「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
 「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある